



アドビシステムズ社が 2004 年会計年度第 1 四半期において過去最高の売上と利益

新製品 Adobe Creative Suite の発売と Adobe Acrobat 事業の成功により、
今四半期、前年同期比 43% の増収

【2004 年 3 月 22 日】

米国カリフォルニア州サンノゼ発（2004 年 3 月 18 日）（NASDAQ：ADBE）Adobe Systems Incorporated（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ 以下アドビシステムズ社）は本日、2004 年度第 1 四半期（2003 年 12 月～2004 年 2 月期、2004 年 3 月 5 日をもって終了）の決算結果を発表しました。

今四半期の売上は過去最高の 4 億 2,330 万米ドルでした。2003 年度第 1 四半期は 2 億 9,690 万米ドル、同第 4 四半期は 3 億 5,860 万米ドルで、今期は前年同期比 43% の増収となりました。同社の今四半期の目標売上高は 3 億 8,000 万米ドルから 4 億 500 万米ドルの範囲でした。

アドビシステムズ社 社長兼 CEO であるブルース チゼンは、「目覚ましい結果となった今四半期は、当社の新製品である Adobe® Creative Suite の売上が世界各国で好調であったこととインテリジェント ドキュメント事業の売上げが過去最高の記録を更新したことによるものです。これは、アドビの技術プラットフォームが世界各国のクリエイティブプロフェッショナルおよび企業に定着してきていることに深く関連しています。今四半期での素晴らしいスタートを受け、2004 年会計年度全体の目標を上方修正しました」と述べています。

今四半期の「一般に公正妥当と認められた会計原則（GAAP）」に基づく希薄化後 1 株当たり利益は、0.50 米ドルでした。ベンチャープログラムへの投資による損失を除く今四半期の希薄化後 1 株当たり利益の参考値も、同じく 0.50 米ドルでした。今四半期の修正後の希薄化後 1 株当たり利益の目標は、GAAP ベース、参考値ともに 0.36 から 0.42 米ドルの範囲でした。

今四半期の GAAP に基づく純利益は 1 億 2,300 万米ドルを計上しました。前年同期実績は 5,420 万米ドル、前年第 4 四半期実績は 8,330 万米ドルでした。今四半期の同利益は前年比 127% 増となりました。

今四半期の過去に計上した事業再編に関する引当金の一部戻し入れおよび投資損益に該当する項目を除く純利益の参考値は 1 億 2,380 万米ドル、前年同期実績は 5,890 万米ドル、および前年第 4 四半期実績は 8,300 万米ドルでした。この結果は、前年比で 110% の成長となりました。

今四半期の GAAP に基づく希薄化後 1 株当たり利益は、2 億 4,610 万株の加重平均株数に対し 0.50 米ドルでした。前年同期の 2 億 3,530 万株に対する同利益は 0.23 米ドル、前年第 4 四半期の 2 億 4,550 万株に対する同利益は 0.34 米ドルでした。

今四半期の GAAP に基づく営業利益は、1 億 6,330 万米ドルでした。前年同期実績は 8,050

万米ドル、前年第 4 四半期実績は 1 億 1,530 万米ドルでした。売上に対する GAAP に基づく営業利益率は今四半期が 38.6%、前年同期が 27.1%、前年第 4 四半期が 32.1%でした。

今四半期の、過去に計上した事業再編に関する引当金の一部戻し入れを除く営業利益の参考値は、1 億 6,330 万米ドルでした。前年同期は 8,050 万米ドル、前年第 4 四半期は 1 億 1,520 万米ドルでした。売上に対する営業利益率の参考値は今四半期が 38.6%、前年同期が 27.1%、前年第 4 四半期が 32.1%でした。

2004 年度第 2 四半期の目標を発表、2004 年度全体の目標も上方修正

アドビ システムズ社は 2004 年度第 2 四半期の目標を、売上高 3 億 6,500 万米ドルから 3 億 8,500 万米ドル、売上総利益率約 93% から 94%、および営業利益率は GAAP ベース、一時的な要因を除く参考値ともに 30% から 33%に設定すると発表しました。

2004 年度第 2 四半期の売上に対する費用比率の項目別目標は以下の通りです。

研究開発費 - 約 19% から 20%
販売・マーケティング経費 - 約 32% から 34%
一般管理費 - 約 9%から 10%

さらに、アドビ システムズ社は同社の発行済み株式数について、2004 年度第 2 四半期は 2 億 4,700 万から 2 億 4,900 万株の範囲にすることを目標にしています。営業外収益については約 300 万から 400 万米ドルを、実効税率については 26% を目標としています。以上の目標より、2004 年度第 2 四半期の 1 株当たり利益の目標は、GAAP ベース、一時的な要因を除く参考値ともに、0.33 から 0.39 米ドルの間となります。

アドビ システムズ社は 2004 年度の同社の売上目標を 14 億 7,500 万米ドルから 15 億米ドル、営業利益率が約 31%から 32%、1 株当たり利益の目標は、GAAP ベース、参考値ともに 1.40 から 1.46 米ドルの間に上方修正しました。アドビ システムズ社の当初の 2004 年会計年度全体の売上目標は約 14 億 2,500 万米ドル、営業利益率が約 30%でした。

アドビ システムズ社は現在のところ、参考値の 1 株当たり利益と営業利益率の目標は、GAAP ベースの目標とほぼ同じであるとみています。

アドビ システムズ社取締役会は、今四半期の現金配当は、1 株当たり 0.0125 米ドルで、2004 年 3 月 30 日現在名簿に記載されている同社の株主に対し、2004 年 4 月 13 日付けで支払われると発表しました。

将来的観測に基づく記述について

本プレスリリースは、実際の業績を大幅に異ならせる可能性のあるリスクと不確実性を内包した、売上、売上総利益率、営業費用、営業利益率、営業外収益、実効税率、発行済み株式数、および 1 株当たり利益に関する将来的観測を含みます。そのような原因となり得る要素として、以下が挙げられますが、必ずしもこれらに限られるものではありません。

- ・ 会社がビジネスを行っている主要地域での経済的、政治的環境

- ・既存の、または新たな競合他社による新製品の市場投入
- ・新製品や既存の製品の新しいバージョンの開発や出荷の遅延
- ・略的な提携が難航する可能性
- ・新たなビジネスモデルや、大企業、政府、コンシューマー、クリエイティブプロフェッショナル向けの新たな市場への移行が難航する可能性
- ・流通経路の変更
- ・主要な人材を集め、維持することができないこと
- ・新製品や既存の製品の新しいバージョン、サービスに対する需要の減退
- ・アプリケーションソフトウェア、コンピュータおよびプリンタ需要の変動
- ・知的財産に関する紛争、訴訟
- ・業界の新しいビジネスモデルへの移行
- ・ロイヤリティや知的財産に関するライセンス契約内容の再交渉または解約
- ・会計基準の変更
- ・予期せぬ税率の変更
- ・会社の株式投資にともなう市場リスク

これらおよびその他のリスクと不確実性についての解説は、当社が証券取引委員会（SEC）に提出した、2003年度年次決算報告書（Form10-K）および2004年度四半期決算報告書（Form10-Q）等の書類をご参照下さい。アドビ システムズ社はこれら将来的観測を更新する義務を負うものではありません。

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、人々のそして企業間のコミュニケーションをより豊かにするために、業界をリードするデジタルイメージング、デザインならびにドキュメント技術のプラットフォームを、一般ユーザ、法人ユーザおよびクリエイティブプロフェッショナル向けに提供しています。アドビ システムズ社の2003年度の売上は10億米ドル超でした。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> でご覧いただけます。